

---

# オカルトとウィザード

桜吹 類

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オカルトとウイザード

### 【Zコード】

Z7715P

### 【作者名】

桜吹類

### 【あらすじ】

「願い・・・？」雅の問いに、青年は答える。『もう、汝の願いをひとつ。からずば、我と汝に契約は交わされん』と。雅の出した答は、「どうか・・・私の執事になつてください」『執事・・・？』そうして交わされた一人の契約から始まる、オカルト好き社長令嬢と容姿端麗ウイザード執事の優雅？な物語。ラブコメになつていきます。。。

## 第01話 それは、契約からの始まり

静かな漆黒の夜空が、雲の隙間から覗かせる満月をより一層輝かせていた。

とある人気の無い夜の山の中、木が無い頂には一人の人影。そこには座り込んだ高校生くらいの少女と、深緑のローブを身に纏い、魔法陣の上に立つ青年の姿があった。

「願い……？」

雅は朦朧とした意識の中、訊き返した。

彼女の問いに、青年は答える。

『そう、汝の願いをひとつ。たらずば、我と汝に契約は交わされん』

青年の足元まで伸びた銀色の髪を、わずかな月の光が神々しく照らした。

青年の黒い眼は光を受けて蒼く、その眼は眩しそうに空に輝く月を見ていた。雲に見え隠れするその月の変化を見つめながら、青年は雅の答を待っていた。

「・・・・・」

雅は俯き、彼女の魅力のあるさうさうとした黒髪が白い顔を覆つた。彼女はぼやける視界の中で、じっと地面を見つめていた。

そうして雅が黙つたまま、少しの時間が流れていった。

そんな二人の沈黙の中を冷たい風が吹き込み、風に揺れる木々が様々な音を出してざわめいた。揺れた木々が、漆黒の中へと木の葉を舞い散らしていく。

青年が手の平を空に向けてさし出すと、舞い散った中の一枚の若い木の葉が、青年のその手の上にふわりと乗った。

再び山が静かになつた頃、若い木の葉を見つめながら青年が口を開いた。

『どうするのだ、召喚者。願いがあつてからこそ、我を喚んだのではなかつたのか？』

「・・・どんな願いでも、聞き入れてくださいますか？」

呴くように雅は言つた。その声に青年は手の上の木の葉を見るのを止めて、俯く彼女を見た。

『それが汝の願いならば、我は聞こう』

「願いは・・・・・。」

雅は顔を上げ、先程よりも視界がぼやけいるせいで相手の顔がよく判らない中、青年を見た。そんな雅を見つめる黒い眼と、彼女の眼が合う。

「どうか・・・私の執事になつてください」

『執事・・・・？』

意識を保つのが限界になつた雅は青年の言葉に答える間もなく、気が抜けたように倒れた。

倒れた召喚者の横顔を見て、青年は妖しく美しい微笑みを浮かべた。

『・・・良からう。汝の願い、確かに聞き入れた』

青年は屈み、雅の頭に手をかざした。青年の手が青白く発光する。

Make a contract  
Wish compensation  
Miyabi . . .

青年が言つ「」とに青白く輝く文字が空に現れ、何十もの円を描かいていった。円は休むことなく、雅と青年の周囲を回り続けた。しばらくして青年は口を閉じ、円は動きを止めて強く発光し始めた。

\*\*\*

やがて光は発光を止め、再び闇が辺りを染めた。

青年は黙つたまま雅を抱き起こし、抱えて立ち上がつた。

青年の髪は発光が終わつた後、長い銀髪ではなくなり、うなじが少々隠れるほどの短い黒髪になつていた。

「さて・・・行こうか。新しい我の<sup>ロード</sup>ご主人」

目を閉じている雅を見て、青年は言った。

その後突然、空から無数の冷たい雨が降り始めた。その雨によつて、青年が立つていた魔法陣は跡も残らず消されていつた。

「濡れてしまふな・・・主人、申し訳ない。急ぎたいが、時間がかかるようだ」

青年は勢いを増していく雨に構わず歩き始め、山を下り始めた。雅は目を覚ます気配がなく、雨は彼女の頬を濡らした。

わざわざにパトカーのサイレンが山の下で聞こえ始めた。何人かの人の声もする。

「主人、私は汝も現在も全く知らん。下から聞こえてくるのは、一体何だ・・・?」

青年は雅の体を寄せて、返事が返つてこないと分かつていながらも彼女に訊いてみた。青年が分かつたのは、雨で冷え始めた彼女の体温だけだった。

「・・・そろそろ、急げ」<sup>う</sup>としよう

青年はそう言うと雅を落とさぬように気をつけ、他人から見えないように雅ごと姿を消して飛んだ。

あと数歩で山を下り終えるところに青年は降り、姿が他人から見えるようにした。

青年の目の前には複数のパトカーやずぶ濡れの人々がいた。足音が聞こえたので青年が後ろを振り返ると、彼が目としたのは背を向けている人、人、人。

彼は少し首をかしげた。だがその人物たちに気を留めず、彼は前を向き直して足を進めた。

「やび・・・雅！」

青年が丁度山から下りたところに来たとき、男の叫ぶ声が聞こえた。その声は先頭のパトカーの近くに立っている眼鏡を掛けた男雅の父親、須藤英<sup>すくね</sup>のものだった。

英の声で、一斉に青年と雅に視線が集まつた。

「・・・・・」

青年は一度立ち止まつたものの、何も言わずにまた歩き始めた。周囲の人間は青年を見たまま呆然として一言も喋らず、その場は静かで雨の響く音がいつもより大きく聞こえた。

そして、青年は再び立ち止まつた。・・・英の目の前に。

青年を見ている英の眼を見て、彼は微笑<sup>わら</sup>つた。

「主人のお父様であられる方ですか？」

「あ、ああ。雅は・・・大丈夫なのか？」

英は、雅を抱えている見たことのない目の前の、端整な顔立ちの青年に戸惑つていながらも、彼に訊いた。その問いに、彼は表情を変えずに答えた。

「ええ、無事です」

その言葉に周囲の人間はやつと我に返り、行動し始めた。

「行方不明者が見つかつたぞ、探索隊、帰還せよ！もう一度言つ。行方不明者の須藤雅さんが見つかつた。探索隊は今すぐ帰還せよ！」英の隣に立つていた警察官は無線で仲間に伝えていた。他の警察官も無線でどこかへ話していたりと、先程までの静けさは嘘のようになくななく、騒がしかつた。

その中で、英と青年は話していた。

「雅をここまで連れて来てくれて、ありがとう。・・・すまんが、

キミは・・・一体誰だい？」

「主人の執事だそうです」

「雅の・・・新しい執事だそう?」

青年の答えに、英は困惑しているようだった。その時、英の携帯電話が鳴つた。

「すまんね、妻からだ。・・・・・もしもし、遙香」  
英は青年に少し背を向け、雅の母である妻の遙香からの電話に出た。

その英の背から雅に視線を移した青年は言った。

「雨は・・・まだ降り止まぬようだな、主人」

この冷たい四月初めの雨の日が、雅と青年の出逢いの日だった。  
その時の彼にとつて、見るもののほとんどが未だ見たことのない  
初めてのものだった。

なぜなら彼は・・・・・。

約九百年もの時間ときを生きてきたウイザード、ハク・ロムア・ダージェントであつたから。



## 第01話 それは、契約からの始まり（後書き）

連載始めました！

執事とかウイザードとか、書いてみたかつたんです  
01話目は、コメディーとか恋愛とかの欠片は全くないんですけど、  
後ほどいります！

では、頑張りますんで、是非これからも「」観覧して下さい！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7715p/>

---

オカルトとウィザード

2011年1月4日00時59分発行